五礼 二十年

祝辞

全国高等学校体育連盟空手道部
部長　金井秀一

青森県高体連空手道専門部が創立二十周年の大きな節目を迎えられ、このたびその歩みを綴る記念誌が発刊されますこと誠に意義深く、心からおよろこび申しあげます。ご案内のとおり、全国高等学校空手道連盟が結成されたのは昭和四十九年であります。同年第一回大会が東京で開催されましたが、そのときの参加は二十一県六十五校に留まっております。しかしながらその後の発展振りは目覚ましく、昭和五十八年には念願だった全国高体連への加盟が実現いたしました。更に六十三年からは、全国高校総体にも正式種目としての参加が認められ、ここに空手道は名実ともに、高校生のスポーツとして、はれて仲間入りを果すことができました。結成以来今日の隆昌をみるまでの間、貴専門部が本連盟組織の一翼を担って、よく協力尽瘁されてこられたことに対しまして、深く感謝申しあげます。

部歴三十五年を誇る弘前大空手道部卒業生の方々の熱意で始まった青森県の高校空手道も、艱難辛苦の幾星霜を経て、現在では加盟三十四校に及ぶと伺っております。東北の雄として、押しも押されもせぬ堂々たる専門部に成長されたわけでありまして、改めてご指導に当ってこられた関係各位のご苦労ご尽力に対しまして、深甚なる敬意を表する次第であります。しかもこのことは、単なる量的発展に留まらず、質的な面でも素晴らしいものがあります。全国総体や選抜大会における青森勢各校の活躍、個人的にも全国高校生の頂点を極めた選手が多数輩出しております。各地、各県の伝統校・新鋭校が入り乱れて並立盛衰し、実力も接近していわば戦国時代の様相を呈しているのが、近年の高校空手道界であります。この二十周年を契機に、貴専門部が更に充実発展されますよう、そして本州北端の地より一大飛翔し中原を制する日の近からんことを期待申しあげ、祝辞といたします。

二十周年に寄せて

青森県空手道連盟
理事長　対馬利夫

青森県高等学校空手道部が創立二十周年を迎えられました事は、誠に喜ばしいことであり、関係者皆様の永年にわたる御足労、御尽力に対し心から敬意を表すると共に、深甚なる感謝を申しあげます。御承知のように、昭和四十七年五月、高体連に、洋弓と共に、空手道競技種目として決定されました、第二十四回大会に空手道が初登場、当時の参加校は、弘高、弘実、東義、弘南、弘工、弘電、五工、五高、光星、青北、深高、の十一校でした。初代役員長、森山泰太郎、副役員長、白戸清一、山本勇衛、委員長、小枝正治、委員、松山繁、野呂嘉広、審判長、対馬利夫、副審判長、故、高坂亨、各学校、支部道場審判員の先生、全国高体連加盟七番目、全国的にも確立されておらず、大変な時期でした。今では、東北一、全国でも有数の組織に育ちました。空手道は、日頃の厳しい練磨を通して、礼節を正し、知育、徳育、体育のバランスのとれた人間形成を究極の目的とする、空手道の愛好者が広がり心身共に健強で明るい人生を過ごされること心より願うと共に、高体連空手道が、青少年の健全育成に果たした役割は、誠に大きいものがあり改めて、歴代の役員各位のこれまでの御尽力に対して、深く敬意と感謝の意を表するものであります。空手道には、二面性があり、精神面を重視し人格の完成に重きをおくこと、競技面として、日頃鍛えた技を十分に発揮出来る試合等、この両面共に欠く事の出来ない重要なものがあり、車の両輪のように思います。今後共心身を鍛え、礼儀を正し、スポーツマンシップの精神を育むことは、青少年健全育成のために大切な役目であり、武道として、スポーツとして、社会教育の一環として指導する事は、大変意義深い事です。更に、関係各位の活躍に期待するところが極めて大なるものがあります。今後益々青少年のために御尽力下さる様お願い申し上げると共に、青森県高等学校空手道部の発展を祈念し、お祝いの言葉といたします。

「二十周年に思う」

青森県高等学校体育連盟空手道部
部　長　須藤安一

風雪に耐えて二十年。わが青森県高等学校体育連盟空手道部会が創立されて、今年は二十周年にあたる。何はともあれ、実にすばらしく、ただただ「おめでとう」といいたい。

思えば、昭和四十七年、弘前高校・青森北高校・光星高校など十一高で高体連に加盟承認を得て以来の二十年である。今や本部会は、その加盟校も三十余を数え、かつ高校空手道界においては、東北地方はもちろん、全国的に名実ともに充実した部会に拡大発展してまいりました。それひとえに、歴代の部会長先生をはじめ、数多くの関係者皆様の尽力の賜物と深く信じております。ここに紙面をお借りしまして、厚く感謝の意を表する次第でございます。

一方世界に目をやれば、空手道の国際組織である「世界空手道連合」に加盟している国、地域は現在百二十か国以上に及んでいるという。空手道がこのように世界的に普及したのは、武道空手としての魅力とスポーツ空手としての妥当性、科学性が認識されてきたからである。かく理由から、おそらく、空手道競技がオリンピックの正式種目になる日も近いのではなかろうか。

さて、本県の空手道の部員に告げたい。若い人の幸福とは一体何だろう。いろいろ言えるだろうが、ある意味では熟練者に出会うことであると私は思っている。もしもそれが空手指導者との出会いであるとすれば、本当に喜びこの上ないことである。熟練者とて自分ひとりの努力で大成したのではない。そこには必ず先人が存在し、そのものとの出会いにより、あるいはその模倣によって育ったのである。青春時代に、たとい小さな出来事、経験に接し、ささやかにも己れの琴線にふれることがあったならば、その時を幸福とみてよいのではなかろうか。

最後に、この度の二十周年を機に、さらなる精進・努力を重ね、一致協力するよう願い祈るばかりである。

温故知新

青森県高等学校体育連盟空手道部
初代委員長　小枝正治

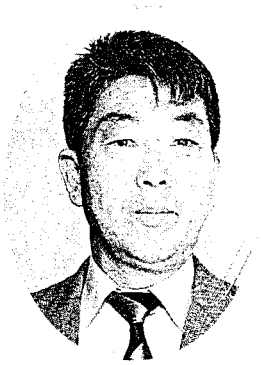
創立二十周年を迎えるに当たり、初代委員長として、まず創立初期の頃の話をしたいと思います。高体連加盟が昭和四十七年（一九七三年）弘前高校以下十一校という大所帯でスタートしました。加盟時十校以上というのは少なく、めずらしいことだろうと思います。なお全国で七番目の早期に加盟できましたことは本県空手道界の歴史の深さにつながり、私と致しましても大変な名誉でした。

その要因は現県空手道連盟理事長、対馬利夫氏の功労にあります。それまでは空手とは武道と成り得てもスポーツとしては決して考えられない時代でした。先生は東京で大学、大学院と学ぶ傍ら空手道に励み、日本空手協会本部研修生として空手に打ち込んでおられましたが、家庭の都合によって弘前で家業を継ぐことになりました。家業の傍ら弘前大学や弘前の各高校長に掛け合い、次々と空手道部を創設されました。現在と異なり空手が野蛮とみなされていた時代ですからその苦労は大変なものでした。また先生は加盟のためにも各方面に奔走し御苦労なされ、その結果成就された部会です。忘れてならないことです。

昭和五十年には女子部が、団体型を競技種目として加盟し、昭和五十三年頃には誰にも考えられなかった女子の格技、組手が導入され、空手道は名実共にスポーツとして認められ、我々一同大いに喜び合いました。

昭和四十九年には深浦高校が本県初の全国大会に出場し、見事ベスト8を果し、青森県の活躍は当初から目覚ましいものでした。若い選手諸君は古き時代のことは知るよしもないでしょうが先輩あっての今日であることを改めて確認し、今後の一層の励みにしてほしいと思います。

なお当初から一緒に働いて頂いた顧問の先生方には何時も楽しく過ごさせて頂き厚く感謝申しあげます。



「創立二十周年にあたって」

青森県高等学校体育連盟空手道部
二代委員長　高　山　　智

青森県高等学校体育連盟空手道専門部の創立二十周年、ならびに記念誌発刊を心から喜んでおります。

聞くところによりますと、高体連加盟を積極的にすすめ御尽力をいただいたのは、弘前の対馬利夫氏（現、青森県空手道連盟理事長）・青森の故高坂亨氏（当時、甲田中学校教諭、六二年没）の両氏で各方面に働きかけて下さり、松山繁氏（当時、青森北高教諭）が高体連事務局に足を運び、高体連会長・故辻村先生をはじめ関係諸先生の御理解のもとに、四七年に加盟が認められたとのことです。当時、空手道は世間一般に決して良いイメージをもたれていませんでした。その空手道を本県高体連が他県に比して非常にスムーズに加盟を許可したのは、「現に高校生が課外活動で空手道をやっている以上、スポーツとして認め、高体連の中で指導してゆくことが彼等のためである」ということだったそうです。加盟より二十年経た今、高体連加盟に御尽力下さった方々は勿論、当時の高体連関係の諸先生にも感謝しなければならないと思います。

第二代委員長と云っても、その期間は六一～六二年の二年間で、その中で心に残っている第一は第九回東北高校空手道選手権大会を八戸で開催し、南部地方の諸先生の御努力で大成功をおさめたこと。次に高体連主催の三大会を各高校顧問で運営するようになったこと。それに伴なって顧問による審判団を計画し、審判技術向上のため、盛岡から箱石先生をお招きするなど数回にわたって講習会を開き、最終的には二十余名の審判団を編成できたことなどです。いずれにしても顧問の先生方の御協力があってできたことでした。

最後に専門部の今後の課題ですが、一つは若手指導者の育成、いま一つは選手強化ではないでしょうか。このことについて、みんなでよく考え、じっくりと取りくんでゆく必要があると思います。

「大きな節目、二十年」

青森県高等学校体育連盟空手道部
三代委員長　松井孝洋

県高体連空手道部20周年にあたり、大きな節目として今年20年目をむかえたことを皆さんと共に喜びたいと思います。長きにわたり指導なされてきた顧問の先生、又県高校空手道部の役員として尽力された先生方、又本会発展のために設立当初から御尽力いただいた青空連理事長、対馬利夫先生はじめ県連の役員の方々、今まで本当にありがとう御座居ました。思いおこすに、昭和43年6月にはじめて青森県高校生空手道選手権が弘前大学の体育館で行われました。この時は弘前市内の高校がほとんどで、全部で10校ばかりであったと思います。

試合のルールは一本組手で、相手の中段突き、上段突き、前ゲリを受けて逆突きで返すやり方です。この時は、団体戦がありませんでしたので、実質的な第一回の大会は昭和47年になります。この時の男子団体組手優勝は弘前高校でした。そして三年後の昭和50年に、はじめて女子部ができ、第一回の女子空手道大会が型の試合で行われこの時の優勝は柴田女子高校でした。そして二年後女子の団体組手試合も行われるようになり、男女共に団体組手・型、個人組手・型が正式に競技種目になりました。団体型に関しては当初は基礎的な型が行われていましたが、どんどん高度な型に変わり、基本が軽んじられてきました。又流派によって見方が違うということで、顧問団で検討した結果、青森県独自の型をつくることになりました。その型を規定一の型と名づけ三年ばかりつづいたと思われます。しかし、全空連の8つの型が制定されるに至り、この型が廃止されことになりました。

現在この規定一の型を知っている者もほとんどいなくなりましたが、顧問団皆んなで時間をかけて作ったこの型は高体連空手道部にとって忘れられない無形の財産となりました。現在のわが県の部のある学校数は34校になり、東北では最多の県となりました。今年、更に飛躍の年となることを祈念致します。

押忍